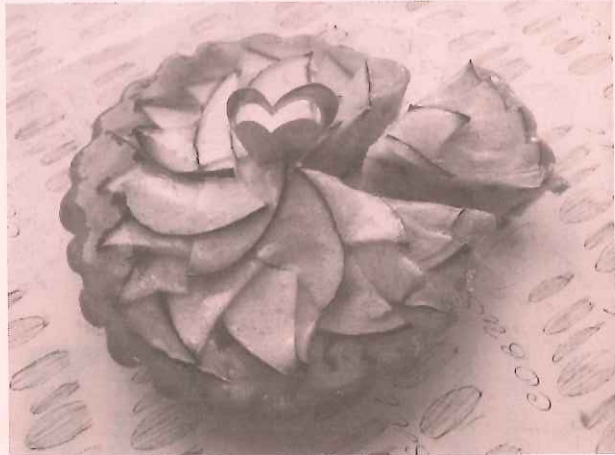
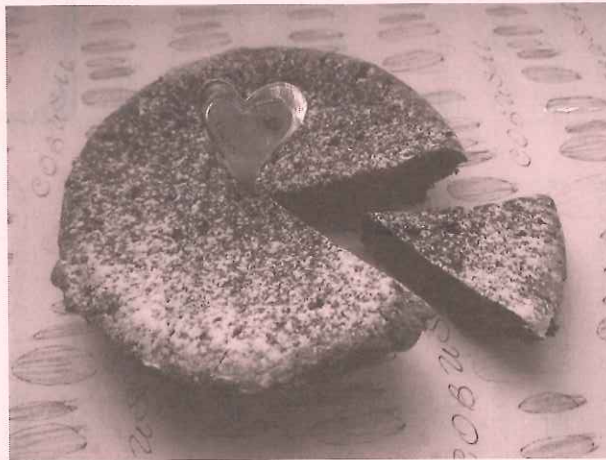


# こぶし だより

働く障がい者も  
**SSKW**  
働けるんだオレたちも



お菓子工房ピケのスイーツ☆

## CONTENTS

- ① トピックス(1) .....2P~3P
- ② 特集 平成22年度を振り返って .....4P~5P
- ③ トピックス(2) .....6P
- ④ 支援の現場から .....7P
- ⑤ アドレス・編集後記 .....8P

No. 346

2011  
**2-3**



# トピックス

Topics

こぶしの会 それぞれの現場から

## 相談支援課

### こぶしの会 相談支援について

こぶしの会では市町の委託を受けて、障がいをもつ方への相談支援事業を実施しています。この事業は、地域で生活する障がい児者が安心して自分らしい生活を送ることができるよう、ご本人と一緒に考えながら適切な支援を行うものです。

現在は宇都宮市から委託を受けている「障がい者生活支援センター こぶし」と真岡市から委託を受けている「芳賀地区障害児者相談支援センター」があります。相談支援課はこの二か所で構成されていて、こぶしの会における相談支援の充実を目指す協議を重ねています。

今年度は、それぞれの地域が抱える課題について支援を必要とする個別の事例を通して検証してきました。さらに、地域の中の重要

な社会資源としてこぶしの会に期待される役割や課題についてまとめ、法人に提案をしていく予定です。

相談支援の利用者は、自宅で生活をしながら作業所等に通所している方や一般就労している方、まだサービス等の利用がない方、障がいをもつ子の家族等様々です。作業所に通所していても、いま一つやりがいを見つけれない、重い障がいをもつていてなかなか支援機関が見つからない、自立をしたいけれど収入がない、家族との関係をうまく作れない、障がいをもつ子の育児に悩み、自信を失くしてしまった等、相談の内容も多岐にわたります。支援を必要としているのに支援できず、しくみが無いという厳しい現実に向面することもしばしばです。それぞれの状況に応じて、外部の関係機関と連携をとって支援の方法を検討していきます。

このような仕事の中で客観的な目でこぶしの会を見た時に、明らかになってくる法人の良いところ、悪いところがあります。それらを法人に伝え、さらなる支援の向上のために問題提起をすると同時に、こぶしの会全体の相談支援機能を高めていくことが相談支援課

に求められる役割の一つだと考えています。地域における支援機関の充実を図り、提案や検討を行うというのは、相談支援事業の重要な業務の一つだからです。

こぶしの会は今後、上三川町での相談支援事業の指定申請を行い、来年度から町の委託を受けて「上三川障がい児者生活相談支援センター」を立ち上げる予定です。新たな仲間を迎え、新しい相談支援課として二三年度も課員の結束を高めて業務にあたっていきたいと思えます。

(相談支援課 山崎)

## 教育研修委員会主催

### 平成22年度実践交流・全職員研修会

平成二三年一月四日(火)に、平成二三年度教育研修委員会主催「実践交流・全職員研修会」を、とちぎ男女共同参画センターで開催しました。最初に、開催の目的について教育研修委員長より説明がありました。今回の研修会のねらい(目的)として、全職員が一堂に会し、各事業所・部署で日々行っている利用者支援等の実践の発表をおして、交流





実践レポートを發表中

を図るといった内容です。次に、実践レポートについての講評が高橋常務理事からありました。その後、全職員を二三グループに分け、グループワークを実施しました。六〇七人が一つのグループになり、実践レポートをお互いに発表しあい、助言者一名が発表にける助言を行いました。

今回の研修会は、事前に職員に実践レポートを一〇〇〇字程度で作成してもらい、そのレポートの添削をまず当日のグループの助言者が行いました（助言者はこぶしの会の部長、部長代理、所長、副所長および教育研修副委員長）。添削の目的として、全職員が確信をもって法人の理念の実現および年度事業計画の実践に取り組み、働きがいや充実感を実感できるようにするための職員の仕事を引き出すこととしました。その後、添削されたレポートについて各自手直しを行い、それを研修会当日にグループワークの場で発表されたわけですが、仕事における思いや達成感、そして、これからの課題等を各職員からそれぞれ真剣なトークとして聞いたのではないのでしょうか。

研修会終了後、事後アンケートを全職員に協力してもらいました。主な感想等は以下のとおりです。

○各事業所、部署間での職員の交流は、仕事を進める上で役に立ちますか。

・同じ法人で働く者として、自分と同じ苦労や悩みをどう理解し解決したかが提示され、これからの仕事の参考になった。

・内部での風通しの良さにつながった。

○事前レポートを書いて添削を受けたことにより、自分の日ごろの実践を振り返るきっかけになりましたか。

・現状を確認することができ、今年度の目標を考えるときの土台となった。

・この先どう取り組んでいったらよいのかアドバイスをもらい、参考になった。

○本日の研修でそれぞれの実践発表を聞いて感じたことは何ですか。

・利用者が自発的になれるような環境づくり、土壌づくりに施設として取り組むことが大事である。

・同じような仕事をしている方もいれば全く違う職種の方もいて、異なる視点から物事がみられてよかったのではないか。

○こぶしの会の職員研修について、自由に見をお聞かせください。

・日ごろ見失いがちなこぶしの会全体の目標、個々の問題が具体的に示されて再認識することができました。

・グループ討議の時間が足りず、もっと掘り下げて話をしたかった。

(セルプ・みらい 青木 利和)



特集

## 平成22年度を振り返って

### チャレンジセンター

チャレンジセンターには7名の職員がいます。  
一人ひとりが2010年度を振り返りました。



●ようやくこの仕事の“楽しさ”や“やりがい”がわかってきたような気がしました。人との繋がりを通し、勉強の毎日でしたが、実りある一年でした。また、暇を見つけては、様々な分野の本をたくさん読みました。生涯、勉強だなあ〜とつくづく思い知らされました。(和田 洋)

●今年度は、就労移行支援事業所と連携し、一緒に企業就労に向けた支援を行うことに力を入れて取り組んできました。職場見学会や職場体験実習を通して、企業で働くイメージをつけながら、求人の応募やジョブコーチ制度の活用等、実際に一緒に動いていくことで、施設の就労支援担当者との協働も少しずつ形になってきたところです。23年度以降も実践を積み重ねて、より良い連携、取り組みを模索していきたいと思います。(古谷 秀太)

●「チャレンジセンター」での仕事に就いて3年になります。私自信が日々、前向きに前進できれば良いのですが…なかなか思うようにはいかない現実もあります。「一日1歩、三日で3歩、3歩進んで…また2歩下がる」の繰り返しです。お仕事を探す、就いた仕事を続けていく、簡単ではありませんが相談に来られた方に寄り添っていきたくと思います。(河原とき子)

●作業所勤務との一番の違いは、静かなこと。作業所では「石鹸がなくなりました」、「相談事があります」など何かしら忙しく対応するうちに一日が終わってしまうのですが、チャレンジセンターでは比較的静かな環境で仕事をしています。チャレンジセンターは『なかま』の就職と就職生活を支援するところなので、そのための相談などで、もっともっと騒がしくても良いと思っています。(高橋 克行)

●4月にこぶしの会に入ってから、早くも1年が経とうとしています。チャレンジセンターでの1年は勉強になることばかりでした。そして、人と人とのつながりが大変重要な仕事であることを感じました。働きたいと考える方の力になれるようにこれからも頑張っていきたいです。(渡邊さおり)

●漠然とですがチャレンジセンターの仕事を理解していたつもりでしたが、4月にチャレンジセンター配属となり、実務を行うと想像していたよりはるかに緻密な支援計画が要求されました。また、私たちの仕事は障がいを持った方々の生活(人生)に大きく関わるため、責任の大きさを実感した一年でした。(小林 勇次)

●公私共に“働く”ということを考え抜いた1年でした。働くことが誰にとっても普通になる日はどうしたらやって来るのか、働くことが喜びとなるためにはどうしたらよいのか、そのために自分にできることは何なのか…簡単には出ない答えを求めて2010年は過ぎ…新たな年を迎えました。今年も悩み続けます!!(新井みゆき)



## 県東ライフサポートセンター・真岡



今年度、事業移行を行い、地域活動支援センターから、多機能型事業（就労移行・継続B型）に移行をし、居場所として過ごすところから一変、仕事を中心とした作業所になり、今まで通所してきた利用者みなさんも急な

体制に驚きと不安を隠せなかったことと思います。しかしながら、その現実を誠意に受け止め、職員と一致団結しながら新たな作業所づくりに率先して取り組み、また新しいなかまとの出会いを大切にさせていただけたことをとても感謝し、そんな利用者さんの前向きな姿勢は私たち職員の励みにもなりました。

そんな、なかまたちから今年1年を振り返ってみての感想をいただきましたので、ご紹介させていただきます。 (県東ライフサポートセンター・真岡 大塚)

-----★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆-----

- 1年間、仕事をしてきました。ありがとうございました。(堀さん)
- 大学卒業後、就職をするのにコミュニケーションの強化、適職を発見するために作業所に通っています。今年度は、色々と自分の課題が残り、まだまだ伸びしろがあると感じました。私は、就職する立場なので必要な能力を向上したいです。(関口さん)
- これまでセンターで皆とトラブルないことを前提として仕事のなかまと一緒に頑張ってきたので、これからも色々なことがあると思けど、自分のペースで頑張りたいです。(松井さん)
- 今年1年新しいなかま、今までのなかまと出会ってとても嬉しく思いました。そして、新しい職員さん達は皆良い人達で自分も皆と一緒にこれからも色々なことをしていきたいと思いました。それから最後まで、諦めないでなかま達から学んだことを活かして頑張りたいです。(日下田さん)
- 1年間過ごせたことが良かったです。(Oさん)
- 去年、入ったばかりですが、仕事できることはいいと思いました。(Sさん)
- もうすぐ2年目です。色々な仕事をして楽しかったのでこれからも頑張りたい。(細谷さん)
- 様々な種類の仕事をすることができました。来年も健康を第一にいきたいと思います。(百武さん)
- 1年間皆で頑張りたいです。これからも色々なことを学び社会復帰を目指して行きたいと思いたい。ありがとうございました。(キャツさん)
- 利用させて頂いて、早1年になります。たまたま、新しい職員さんと一緒でした。一番先に感じたことは、言葉遣いのマナーがなっていないこと。一般常識のなさにガッカリしました。また、悪いことをした時にはその場で注意して欲しい。今ではスムーズに行えていると思いたい。レクリエーション、意見交換は月1回位は行ってほしいです。(Yさん)
- ・今年は旅行に行きたい。(Uさん)
- ・ボーリングに行きたい。(村上さん)



-----★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆-----



# トピックス

「ぶし」の会 それぞれの現場から

Topics

## ホーム秋桜 開所

平成二二年一二月一日、けやきハイツのある芳賀地区に「ホーム秋桜」が開所いたしました。

「ホーム秋桜」は第2けやきホームの老朽化に伴い、新築されたケアホームです。定員は八名で、平成二三年一月現在の利用者数は六名となっております。場所は、既存の「けやきハイツ」の並びにあり、買い物等とても利便性の良い場所です。また、南向きで陽当たり良好、陽のさす各居室はとても明るいと利用者の方々からも好評です。

ざっと、「ホーム秋桜」をご紹介いたしました。が、開所に至る経緯をもう少し詳しく書かせていただきます。



「ホーム秋桜」について触れるとき、大家さんのお心遣い抜きには語ることができません。「ホーム秋桜」(以下こすもすと書きます)の大家さんは、「けやきハイツ」の大家さんと同じです。「もう一か所建てましょう」と言ってくださり、ご自宅の建築(大家さんの家は現在建築中です)を後回しにし、こすも

すの早期の開設にご尽力いただきました。作りも、バリアフリーを意識してくださり、玄関入ってすぐ脇には腰かけがあり、そこに座って靴の着脱が行えるようになっていきます。また、階段のスペースも広くとってあります。二か所のお風呂も左右対称になっており、左右のどちらかに身体障がいのある方にとっても使いやすくなっています。(お風呂に手すりが左右対象についています)また、広いダイニングルームは、開放的でみなさんの憩いの場となっています。これもみな、大家さんと建築会社の方との綿密な打ち合わせとお心遣いによるものです。

次に、こすもすの命名についてですが、名付け親は、第2けやきホームの利用者のみなさんになってもらおうということになりました。たくさん候補名ができました。中でも印象的だったのが、たとえば、グランドホーム、ホームみちのく、などでした。その中でも、「こすもす」という名前がいいこう！と決まった理由は、昨年四月に「ホームひまわり」が開所したので、今回も花の名前がいいのでは、と話し合い「こすもす」になったというわけでした。

こすもすの作りと、名前の由来ときましたので、次にいよいよ、こすもすでのみなさんの生活風景について触れてみたいと思います。第2けやきホームの移転の話をした時は、「家賃も上がるし、慣れたところが」という声もありましたが、今のみなさんの声は、冒頭でも触れましたように「陽当たりも良くいいところ」と感想を話されています。

定員も八名になったことで、これまで、第2けやきホームは男性のみのホームでしたが、現在は、女性も二名住まわれるようになりました。年齢層もみな様々ですが、お互いに協力し合い和やかに日々過ごされています。開所して早一か月、



部屋も落ち着き、だんだんとこすもすが、利用者・職員の気持ちの中に定着してきたのではないかと感じます。自然な口調で「こすもす」と会話の中に飛び交っています。

ここで一つ、引越しをする際の第2けやきホームにおけるエピソードをご紹介します。引越したいと思います。引越し作業をしていた時、第2けやきホームの隣にお住まいの方に声をかけられました。隣の方は、第2けやきホームの方々が、お茶を飲み遊びに行ったりと行き来しているほど関係の深かった方でした。「とうとう、引越してしまうんだね。また近くに来たときには顔を出してください」と、言葉をかけてくださいました。私は、なんだかジンときてしまいました。第2けやきホームのみなさんが築いてきた隣の方との人間関係：きつと、隣の方との関係以外にも、みなさんそれぞれの思いがたくさん詰まったホームだったんだと思いました。隣人の方のお言葉から、いろいろと思いが馳せ、感慨深いものがありました。

そして、これからのこすもすですが、また新たな地でも、たくさん、いい隣人関係、人間関係を築き、たくさんいい思い出を作っていけたらいいなと考えます。昨年、八か所のホームで利用者職員で懇談会を行いました。こすもすでも、そろそろ引越しが終わり落ち着いてきたので、懇談会を開催し、みささんと楽しい企画を考えたいと思います。



# 支援の現場から……

## 「県東ライフサポートセンター・真岡から就労へ」

平成二二年度から、就労移行支援事業と就労継続支援B型事業の多機能型としてスタートした県東ライフサポートセンター・真岡（以下、サポートセンター）から、ようやく最初の就労者を出すことができました。名前をAさんとしませんが、Aさんが就労につながるまでの支援と経緯をお伝えしたいと思います。

Aさんは、県央高等産業技術学校（現県産業技術専門学校）の障害者委託訓練（基礎トレーニング科）でのカリキュラムの一環でサポートセンターに訪れたのが始まりでした。

通所を始めた当初は、非常におとなしい方でしたが、作業に関する指示もきちんと理解できており、作業能力も高かったため就職も十分に考えられる方だという印象がありました。しかし、通所を続ける中で、就職に向けての最も大きな課題「自分の気持ち言葉にして表現することの難しさ」が見えてきました。それは就職面接時にも大きく影響し、緊張のため受け答えが上手くできず不採用になることが続きました。

Aさんの対人面の克服のためにどうすればよいか。ちょうどその頃、クロ

ネコヤマトからメール便の仕事を紹介

されました。作業所内だけではなく、外に出て一般の人と接する機会も多く、配達の中であいさつや、確認のため一般の人に声をかけるなどの機会もあります。そのような場面を本人に経験してもらいながら、初対面の場所や人に対して慣れていくことを考えました。配達の中で徐々に人と話すことにも慣れ、昨年一〇月にはハローワーク主催で行われる障害者合同就職面接会に参加しました。練習時には緊張が強く、想定外の質問になると答えに詰まってしまいうことも見られましたが、

何度か模擬面接を行う中で、必要なことはきちんと自分で答えられるようになり、本番でも堂々と面接に臨みました。一週間ほどして採用結果が届きましたが、結果は不採用でした。Aさんもおかなりのショックを受けた様子で、「もう面接はしたくないです」と辛そうな姿が印象に残りました。このことから、面接だけではなく、実習等から本人の作業を見てもらい、その上で就職につなげていける形が本人には一番いいのではないだろうか、職員間でも話されるようになっていきました。

合同面接会から一月後、思いのほか

早くその機会がやってきました。チャレンジセンターより、芳賀町にある工場で大幅に障害者雇用をすることになり、その最初のメンバーとして、Aさんを含めた三名での実習を行いたいという話が上がってきました。また、実習後に作業が問題なくこなせるようであれば、トライアル雇用を経て就職に繋げるとのことで、まさに願ってもない展開でした。また、一人だけではなく三人での実習という部分も大きく、三人でグループ意識をもってもらい、一人で不安を感じることのないように仕事をすることができるようになることを考えた。本人も「やってみたい」との希望が強く、チャレンジセンターとともに実習の動きを作っていました。場所が芳賀町であったため、電車での通勤の仕方や実習中の作業の内容等を確認しながら、二週間の実習を開始することとなりました。

実習が始まった当初こそは緊張が強い様子でしたが、徐々に同期の三人と打ち解け、職場の先輩ともコミュニケーションをとりながら雰囲気にも慣れていきました。また、作業に関しても、職場から良い評価を得ることができました。

その結果、現在のAさんはトライアル雇用を終え、正式採用となりました。サポートセンターには時々土曜日の開所日などに顔を見せてくれますが、非常に充実した表情を見せてお

り、職場のことを聞くと笑顔を見せてくれています。同期で入ったほかの二人ともうまくやれているようでした。

今回のケースでは、Aさんの課題の対応として、実習から採用に繋げていける形式をとることができたこと、一人ではなく複数人での実習を開始できたことで、不安感を大幅に軽減できたこと、うまく就職に繋がったのではないかと考えています。

一方で、企業・ハローワーク・チャレンジセンターとの連携、実習から採用へと繋がる道筋があったため、就職に結びつけることができましたが、今後、また同じようなケースがあった時に、今回のことを踏まえて、就職への道筋を作っていかなければならないと感じさせられました。就労支援と一言でいっても、その人それぞれの個性・適性があり、また、企業から求められるものもあります。技術的な面だけではなく、精神的な不安の軽減や、就労後の定着支援が必要になる方も大勢います。

また、企業に対してもこちらからどのようにアプローチをしていけばいいのか、実習先や求人先をどのように開拓すればいいのか、考えることは山のように積み重なっています。Aさんのケースから学んだこと、学ばなければいけないことを今後の支援にも生かしていければと思います。



社会福祉法人  
**こぶしの会**

- **こぶし作業所** ☎321-0126 栃木県宇都宮市茂原町837-1  
 ・就労移行支援事業 TEL 028 (653) 1020 FAX 028 (688) 1121  
 ・就労継続支援 B 型事業 E-mail kobushi@chive.ocn.ne.jp  
 ・生活介護事業
  - **障がい者生活支援センター こぶし** ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401  
 ・在宅障害(児)者の相談・支援 TEL 028 (613) 5703 FAX 028 (666) 6128  
 E-mail kobushi-sw@tenor.ocn.ne.jp
  - **こぶしのときわ荘** ☎321-0139 栃木県宇都宮市若松原2-6-8  
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (653) 1581
  - **く る み** ☎321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野2867-3  
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (664) 0435
  - **けやき作業所** ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244  
 ・就労継続支援 B 型事業 TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789  
 ・生活介護事業 E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp  
 ・日中一時支援事業
  - **第2けやき作業所** ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532  
 ・就労移行支援事業 TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818  
 ・就労継続支援 B 型事業 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
  - **県東ライフサポートセンター** ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532  
 「ほっとCHA」 TEL 090 (7820) 9165  
 ・地域活動支援センター
  - **県東ライフサポートセンター「真岡」** ☎321-4305 栃木県真岡市荒町3-9-5  
 ・就労移行支援事業 TEL 0285 (83) 2567 FAX 0285 (85) 8055  
 ・就労継続支援 B 型事業
  - **ホームひまわり** ☎321-3321 栃木県芳賀郡芳賀町大字下高根沢字下原3932-79  
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (678) 3592
  - **けやきハイツ** ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井178  
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (677) 2879
  - **ホーム秋桜** ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井184-1  
 ・知的障害者ケアホーム TEL 028 (677) 0790
  - **コ ー ポ 峰** ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井775-2  
 ・知的障害者ケアホーム
  - **セルブ・みらい** ☎321-4363 栃木県真岡市亀山1043-23  
 ・就労移行支援事業 TEL 0285 (81) 1155 FAX 0285 (81) 1177  
 ・就労継続支援 B 型事業 E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp  
 ・生活介護事業
  - **ぼ て っ と** ☎321-4364 栃木県真岡市長田1-12-5  
 ・知的障害者グループホーム TEL 0285 (80) 1227
  - **芳賀地区障害児者相談支援センター** ☎321-4305 栃木県真岡市荒町110-1 市総合福祉保健センター内  
 ・在宅障害(児)者の相談・支援 TEL 0285 (80) 7765 FAX 0285 (80) 7765
  - **県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」** ☎321-4305 栃木県真岡市荒町111-1  
 ・障害者の就業相談・支援 TEL 0285 (85) 8451 FAX 0285 (85) 8452  
 E-mail p-cc-star@ec3.technowave.ne.jp
- 
- **法人本部** ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401  
 ・総務・企画部 TEL 028 (613) 3707 FAX 028 (666) 6128 E-mail soumukikaku@kobusi.or.jp  
 ・就労・生活支援部 TEL 028 (613) 3707 FAX 028 (666) 6128 E-mail sphb8h99@jewel.ocn.ne.jp  
 ・生産活動部 TEL 028 (666) 0439 FAX 028 (666) 6128 E-mail skb@kobusi.or.jp  
 ・居住生活支援部 TEL 028 (666) 0418 FAX 028 (666) 6128 E-mail kyozeu@kobusi.or.jp

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください (閲覧時間 8:30 ~ 17:00)

**編集後記**

こぶしだよりを毎号ご愛読いただいております皆様ありがとうございます。平成22年度は、毎月1回の定期発行と、こぶしの会の取り組みをよりたくさんの方に認知していただき、障がい者福祉を取り巻く情勢についてもご理解していただけるよう紙面の充実を図ってきました。しかし、発行が遅れてしまい、読者の皆様にタイムリーな情報発信ができなかったことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

次年度も、こぶしの会の広報誌をたくさんの方に読んでいただけるよう取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。(菊地)

**編集委員**

大塚 秋穂 小林 勇次 菊地 豊 星野 早苗 廣本 佳奈子 森島 知代

発行所 郵便番号一五〇〇七三

東京都世田谷区砧六―二六―二一  
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円